

ものづくりのまちであることから、未
来永劫続けるというものではなく、
時間的な発動である。

問 商工予算に比べ農業、土木予算は少
なく、自治会要望を実現してやるべき
でないのか。

答 地域にはご不便をかけるが、国の大
型補正を見計らっていききたい。

市長の政治姿勢について

問 昨年12月の衆議院選挙での特定候
補への支援は、正しい判断であったの
か。

答 私思ではなく、公恩、三条市のためど
れだけ尽くしてくれたかを判断基準
とした。二人の代議士が誕生した中、
三条市のために何をしてくださるの
か、今後考えていく。

合併特例債の残額30億円について



下田地域と市街地を結ぶ道心坂

問 社会インフラ整備の中、下田地域と
市街地を結ぶ重要幹線の一つ、通称
「道心坂線」の道路改良の今後の対

大崎中学校の耐震診断結果後の
考えについて

問 大崎中学校は、敷地面積が狭く、また
グラウンドは市内中学校の中で一番
狭い状態である。次年度に行う校舎
棟の耐震診断結果を受け、結果によ
り大崎小学校隣地に中学校を移転改
築すべきだと思われるがどうか。

答 平成25年度に耐震2次診断を予定し
ていたが、24年度の補正予算におい
て対応し、秋頃には診断結果が判明す
る。その結果によって改築しなければ
ならない結果となれば、学校規模、グ
ラウンドの状態を踏まえ校舎棟及び
体育館棟の全体の方向性を検討して
いきたい。

救急車の出動体制について

問 救急要請があった際に、出動の必要
性に疑義があった場合はどのように
対応しているのか。また救急車の台
数、救急救命士の数は充足してい
るのか。

答 三条市は、救急要請があった場合に
は全ての事案に対し出動している。
また、救急車は6台保有しており台
数としては適正である。救急救命士
は28人おり、搭乗する際は3人に1
人の救急救命士が搭乗している。

道路行政について

答 応、また考え方について。
危険区間と認識している。合併前
も三条市、下田村と協議し県道に昇
格して整備することで、合意してい
る。地元地権者の同意を求め、県道昇
格の上で、県に改良を要望していく。

PM2.5の対策指針について

問 三条市での観測地点、観測機器の設
置、また小中学生や高齢者への対応
はどうか。

答 市内には観測地点、機器は設置して
いない。県が上越市、長岡市、新発田
市に観測地点を設置しているが、そ
のデータを共有する。FMラジオ、防
災行政無線で周知していく。

ついで湯について足湯を

問 八木ヶ鼻温泉保養交流施設いい湯ら
ていに足湯を設置し、交流人口の増
加とコミュニケーションの場を提供
してはどうか。

答 湯量とのバランスを考えながら検
討してみたい。

合格祈願札の贈呈を

問 諸橋敏次記念館において合格祈願札
を贈呈してはどうか。

答 記念館としての事業効果やPR性も
考えながら、指定管理者と検討して
いきたい。

問 どの道路を改良するのかの選択基準
に、第一種低層住居専用地域を優先
するはどうか。

答 民間の皆様方の開発によっていると
ころが多い。今後もその方向あるい
は、民間と市との連携で道路整備を
進めていく。

子どもの育ちサポートセンター、
教育センターについて

問 学校現場の現状認識はどうか。子ど
も・若者総合サポートシステムとの関
係は。

答 小中一貫教育の考え方が現場に定着
してきている。小1プロブレム、中1
ギャップ解消の効果が表れつつある。
いじめは、ほぼ全ての事例が解決し
た。不登校も減少傾向にある。子ども
の育ちサポートセンターは子ども・
若者総合サポートシステムと車の両
輪として、発達障がいなどの対応の
ため専門的組織として開設する。

子どもの居場所と
施設の有効活用について



教育センター



子どもの育ちサポートセンター

問 現状はどうか。放課後子ども教室に

避難所の検討結果は

問 7・29水害の教訓を生かした避難所
の在り方等についての検討結果はど
うか。

答 避難所を従来と同様の滞在型と緊急
時に一時的に避難する緊急避難場所
を設けることで施設を選定してい
る。自治体が主体となって民有施設
を選定することで、地域特性に応じ
た避難が可能になる。ひと目で場所
が分かるようにステッカーを貼る。
見直しについては広報や防災会議で
報告していく。

褒状の贈呈を

問 介護保険サービス未利用者に対し、
褒状の授与を検討してはどうか。

答 ご本人の励みになり、各種制度の安定
的な運営につながるから、敬老祝
い金品贈呈事業の拡充という形で、大
谷地和紙による褒状を贈りたい。

公文書管理の取り組みについて

問 公文書管理の現状はどうか。

答 各庁舎の書庫が手狭になっている。
経営戦略プログラムで見直す。保存
期間、区分などを明確にし、文書規
程に定め、更なる適正な管理に努め
ている。

問 適正な管理と管理条例の策定はどう
考えるか。

答 は市民パワーが十分生かされている
か。施設整備の見直しは。
スタッフの方々からは積極的に取り
組んでいただいている。後継者の発掘
に努め、地域の実情に合った運営を
していく。西鶴田小に見学クラブ室を
設置する。

震災がれきについて

問 震災がれきだけでなく三条市のごみ
からも放射性セシウムが出ており、セ
シウム集積場になる最終処分場は放
射能の長期管理を行うべきだがどう
か。

答 広域処理の放射性セシウムの総量は
158万ベクレルで、このほか三条市
のごみから約7800万ベクレルが
出ている。放射性セシウムはこれか
らも検査を行っていく。

問 セシウム吸着ネットの経費を環境省
は「余計な工事」として認めていない
が、国が出してくれる見直しはど
うか。

答 環境省の幹部と直接やりとりした中
でご理解をいただいた。

「通学バス運行の検証を求める請願」
が採択されたがその認識について

問 教育委員会の意思は今年の冬に実証
実験を行うと考えていたのか。

答 教育委員会としては、対象児童をバ
スに乘車させた試験走行を行う必要
を認識し計画を進めてきたが、開校

答 まず体制を整えていく必要がある。
今後の課題としていきたい。

商工行政について

問 保内、川通工業団地の企業誘致の見
通しはどうか。

答 現在、何件かの引き合いもあり、残り
の分譲に努めたい。
問 オーダメイド型の賃貸工場の誘致の
考えはどうか。

答 現実としてはオーダメイド型の誘致
は考えていない。初期投資軽減のた
め、分譲用地の賃貸も行っている。

障がい者支援について



青空福祉会の作業風景

問 障害者優先調達推進法の取り組みは
どうか。

答 障がい者の自立支援は、就労の機会、
仕事の確保が重要。今後、国から基本
指針が示される。

問 障がい者就労施設への物品の発注は
どのようになっているのか。

答 古紙の搬出や白布等のクリーニング
を依頼している。

農業問題について

問 市長は施政方針の中で、第2次農業
活性化プランにおいては、農業者の所
得向上を柱に掲げ、産業として成り
立つ農業の確立を目指すと言われて
いるが、具体的な方策と第1次農業
活性化プランの総括についてお伺い
する。

答 第1次農業活性化プランでは、根本
的には所得向上につながらなかった
が、今後学校給食米の首都圏への販
路拡大など、さまざまな方策を考え
ており成果が上がるようにしたい。
問 TPP参加は今後の日本農業には大
変な問題であるが、三条市の農業を
守る決意、方策はどうするのか。

答 日本経済を考えればTPP参加は必
要だと思う。さまざまな問題もある
と思うが守るべきものは守ってい
かなければならないと考えている。
問 下田地域交流拠点施設に農産物直売
所が設置されるが県内でも有数の豪
雪地帯でもある。冬期間の農産物の
確保、販売戦略はどうするのか。

答 出品者100名以上の会員を目標に
し、観光客の誘致に力を入れる。
冬期間の農産物は不足すると考えら
れるので仕入れ品の販売も検討して
いる。